

- 問1 7世紀半ばの東アジアの情勢において、日本が朝鮮半島へ大軍を派遣した理由とその後の影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 新羅の日本侵攻を阻止するために軍を派遣したが、敗北したため、中大兄皇子は政治の表舞台から退いた。 | 2. 高句麗と結んで唐を攻撃するために軍を派遣したが、勝利したため、大陸に広大な領土を獲得した。 | 3. 唐と新羅に滅ぼされた百済を再興するために軍を派遣したが、敗北したため、九州に水城を築くなど防衛を強化した。 | 4. 唐の皇帝からの要請で新羅を討つために軍を派遣したが、暴風雨により撤退し、そのまま遣唐使を廃止した。 |
|---|--|--|--|
- 問2 7世紀の日本の出来事をまとめた年表において、天智天皇の死後に起きた大規模な内乱である「壬申の乱」の当事者となった人物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|---------------|------------|---------------|
| 1. 足利尊氏と後醍醐天皇 | 2. 大海人皇子と大友皇子 | 3. 平清盛と源義朝 | 4. 中大兄皇子と蘇我入鹿 |
|---------------|---------------|------------|---------------|
- 問3 世界最古の木造建築とされる法隆寺や、そこに安置されている釈迦三尊像に代表される、7世紀前半の文化の特徴として最も適切な説明はどれか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--|--|---|
| 1. 唐の影響から離れ、日本の風土や生活に合わせた貴族中心の文化である。 | 2. 大陸や朝鮮半島の技術を取り入れた、日本で最初の本格的な仏教文化である。 | 3. 武士の台頭を背景に、力強さと写実性を重視した東大寺南大門などの文化である。 | 4. 聖武天皇の時代に、仏教によって国家を守ろうとする鎮護国家の思想が強まった文化である。 |
|--------------------------------------|--|--|---|
- 問4 7世紀中頃の東アジア情勢において、唐と新羅の連合軍に攻められた百済を救援するため、日本が朝鮮半島へ大軍を派遣して戦い、大敗した出来事を何というか。 (2019年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------|---------|----------|
| 1. 白村江の戦い | 2. 元寇 | 3. 文永の役 | 4. 刀伊の入寇 |
|-----------|-------|---------|----------|
- 問5 「和を以て貴しとなし」という言葉から始まり、仏・法・僧の三宝を敬うことや、天皇の命令を受けた際には必ずそれに従うべきことなどが役人の心得として示された、聖徳太子（厩戸王）が定めたと言われる規範を何といいますか。 (2022年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|-----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 大宝律令 | 3. 御成敗式目 | 4. 十七条の憲法 |
|----------|---------|----------|-----------|
- 問6 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」において唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。この時、西日本の各地に山城を築き、九州の沿岸に「防人」を配置した人物は誰ですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 聖武天皇 | 2. 白河上皇 | 3. 中大兄皇子 | 4. 足利義満 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問7 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は中国の進んだ制度や文化を学ぶため、小野妹子らを中国へ派遣しました。当時、約300年ぶりに中国全土を統一していたこの王朝の名称として正しいものを選びなさい。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 明 | 2. 宋 | 3. 唐 | 4. 隋 |
|------|------|------|------|
- 問8 6世紀末、日本初の女性天皇である推古天皇が即位した際、天皇を助けて政治を行う「摂政」という役職に就き、有力豪族と協力して天皇中心の国づくりを進めた人物は誰ですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 中臣鎌足 | 2. 聖徳太子 | 3. 足利義満 | 4. 中大兄皇子 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問9 古代日本が遣唐使を派遣し、唐の文化や制度を積極的に取り入れようとした背景や理由として、最も適切なものはどれか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 唐がモンゴル帝国に滅ぼされそうになっていたため、軍事支援を行う見返りに領土を譲り受けるため。 | 2. 唐との間で大規模な戦争が続いていたため、和睦の条件として唐の文化を受け入れるよう要求されたため。 | 3. 唐の優れた制度を学ぶことで、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を強化しようと考えたため。 | 4. 唐から大量の宋銭を輸入し、日本国内の貨幣経済を急速に発展させる必要があったため。 |
|---|---|--|---|
- 問10 飛鳥時代、日本は百済などの朝鮮半島の国々から仏教や漢字、儒教といった大陸の文化を取り入れました。百済から伝えられた仏教が、その後の日本の政治や文化に与えた影響についての説明として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 聖徳太子（厩戸王）が仏教を厚く敬い、法隆寺などの寺院を建立して国家の安定を図った。 | 2. 遣唐使によってもたらされた禅宗が、鎌倉時代の武士の精神的支えとなった。 | 3. 平城京に大きな東大寺を建立し、全国に国分寺や国分尼寺を作ることによって地方を治めた。 | 4. キリスト教の伝来に対抗するため、幕府が寺請制度を整えて仏教を保護した。 |
|--|--|---|--|
- 問11 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は、仏教や儒教の教えを取り入れた「十七条の憲法」を制定しました。この法が制定された主な目的として最も適切なものはどれですか。 (2019年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 遣隋使の派遣を中止し、日本独自の国風文化を発展させるための指針とするため | 2. 大宝律令の内容を補い、農民に対して厳しい罰則を設けて年貢を確実に徴収するため | 3. 天皇の命令に従うことなど、政治に関わる役人の自覚を促し、国家の体制を整えるため | 4. 最澄や空海が中国から持ち帰った新しい仏教を広め、地方の豪族を統制するため |
|---|---|--|---|
- 問12 聖徳太子が推古天皇の摂政として行った政治改革の一つで、家柄にとらわれず、個人の才能や功績に応じて位を与え、役人に取り立てる制度の名称は何か。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|---------|-----------|
| 1. 冠位十二階 | 2. 班田収授法 | 3. 公地公民 | 4. 十七条の憲法 |
|----------|----------|---------|-----------|
- 問13 7世紀から8世紀にかけて、日本が天皇を中心とした法に基づく国家体制（律令国家）を整備していった過程について、出来事を時系列に沿って正しく並べたものはどれですか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 公地公民の方針の提示 → 十七条の憲法の制定 → 藤原京への遷都 → 近江大津宮への遷都 | 2. 藤原京への遷都 → 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 | 3. 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 | 4. 十七条の憲法の制定 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 → 公地公民の方針の提示 |
|---|---|---|---|
- 問14 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は官吏や貴族が守るべき規範として「十七条の憲法」を制定しました。この中で、「和を貴しとなす」という言葉に代表される社会の秩序や礼儀を説いた、中国の孔子を始祖とする思想は何ですか。 (2018年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 儒教 | 2. 道教 | 3. 仏教 | 4. 神道 |
|-------|-------|-------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 唐と新羅に滅ぼされた百済を再興するために軍を派遣したが、敗北したため、九州に水城を築くなど防衛を強化した。	当時の日本（倭）は、朝鮮半島の南西部にあった百済と親密な関係にありました。百済が唐と新羅によって滅ぼされた際、その再興を支援するために中大兄皇子が軍を派遣しましたが、白村江の戦いで敗れました。敗戦後、大陸からの報復を恐れた日本は、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を設けるなど、国土防衛のための大規模な整備を行いました。
問2	答え 2 大海人皇子と大友皇子	壬申の乱（672年）は、天智天皇の後継者の座を争い、天皇の弟（大海人皇子）と息子（大友皇子）が戦った古代最大の内乱です。中大兄皇子と蘇我入鹿の対立は、この乱より前の645年（乙巳の変）の出来事です。また、平清盛や源義朝は12世紀の平安時代末期、足利尊氏や後醍醐天皇は14世紀の南北朝時代に近い時代の人物であり、7世紀の出来事である壬申の乱とは時代が大きく異なります。
問3	答え 2 大陸や朝鮮半島の技術を取り入れた、日本で最初の本格的な仏教文化である。	飛鳥文化は、法隆寺の釈迦三尊像に見られるような北魏様式など、大陸の進んだ技術や芸術様式を取り入れた点に特徴がある。法隆寺の木造建築も、当時の大陸の建築技術を土台に造営されている。
問4	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われた、日本（倭）・百済遺民連合軍と、唐・新羅連合軍による戦いです。この戦いで大敗した日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州に水城を築いたり、防人を配置したりして国防を強化するとともに、都を近江の大津宮へ移すなどの対応を迫られました。
問5	答え 4 十七条の憲法	飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が、豪族たちに対して国家の役人としての自覚を促すために作成したものです。それまでの氏族単位の政治から、天皇を中心とした中央集権的な国家体制へと移行するための道徳的な規範として機能しました。この中では、儒教や仏教の教えが取り入れられています。
問6	答え 3 中大兄皇子	663年の白村江の戦いで敗北した後、中大兄皇子は唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。そのため、大宰府を防御するための「水城」や西日本各地の「山城」を築くとともに、東国から集めた農民を「防人」として九州北部の警備にあたらせました。彼は後に天智天皇として即位し、近江大津宮へと遷都しました。
問7	答え 4 隋	6世紀末に中国を再統一した隋に対し、日本は「遣隋使」を派遣しました。小野妹子は607年に派遣された代表的な人物です。この時期の日本は、推古天皇の摂政であった聖徳太子らを中心に、大陸の優れた政治制度や仏教文化を取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとしていました。
問8	答え 2 聖徳太子	飛鳥時代、推古天皇の摂政となった聖徳太子は、有力豪族である蘇我馬子と協力して政治を行いました。この時期には、家柄ではなく能力で役人を登用する官位十二階や、役人の心得を示した十七条の憲法が制定され、中央集権国家の基礎が築かれました。中大兄皇子や中臣鎌足は、後の時代に蘇我氏を倒して大化の改新を進めた人物です。
問9	答え 3 唐の優れた制度を学ぶことで、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を強化しようと考えたため。	当時の日本は、豪族が割拠する状態から天皇を中心とする組織的な国家へと移行する過程にありました。唐の完成された律令制度や官僚制は、日本が強力な中央政府を作るための理想的なモデルであり、それを学ぶことが遣唐使の大きな目的でした。なお、宋銭の輸入は平安時代末期以降、モンゴル帝国による侵攻は鎌倉時代の出来事です。
問10	答え 1 聖徳太子（厩戸王）が仏教を厚く敬い、法隆寺などの寺院を建立して国家の安定を図った。	百済から伝来した仏教は、有力豪族である蘇我氏によって受け入れられ、のちに聖徳太子の政治に取り入れられました。聖徳太子は「三宝を敬え」という内容を含む十七条の憲法を制定し、法隆寺などの寺院を建てることで、仏教を基盤とした国家づくりを進めました。これが日本最初の仏教文化である飛鳥文化の発展につながりました。
問11	答え 3 天皇の命令に従うことなど、政治に関わる役人の自覚を促し、国家の体制を整えるため	聖徳太子は、豪族たちが権力を争っていた状況を改善し、天皇を中心とした中央集権国家を築くことを目指しました。そのため、役人（官吏）に対して「和を以て貴しとなす」という儒教的な協調精神や、仏教を深く敬うこと、天皇の詔（みことり）には必ず従うことといった、政治に携わる者としての道徳的な規範を示したのがこの法です。
問12	答え 1 冠位十二階	才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が登用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。
問13	答え 3 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都	聖徳太子が役人の心得を示した十七条の憲法（604年）を制定した後、中大兄皇子らによる大化の改新（646年）で公地公民の原則が示されました。その後、天智天皇としての近江大津宮への遷都（667年）を経て、694年に持統天皇によって中国の都にならった本格的な都城である藤原京へと移りました。藤原京が大津宮よりも後の時期である点に注意が必要です。
問14	答え 1 儒教	聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権体制を整えるため、役人の心得をまとめた十七条の憲法を制定しました。ここには、中国から伝わった孔子の思想である「儒教」の教えが強く反映されており、上下関係の秩序や礼儀（礼）を重んじることで、豪族たちの対立を防ぎ、国を安定させる狙いがありました。一方で、第二条にある「三宝を敬え」という記述は、仏教を重んじる姿勢を示しています。